

コロナ後を意識した新作。「描いた後、一部が軍靴のように見えてきた」と話す高草木裕子さん。「めったに使わない色」だが無意識に選んだのはウクライナカラーだったーさいたま市浦和区の埼玉会館

# さいたま市特集2023

## 災い乗り越える創作の力

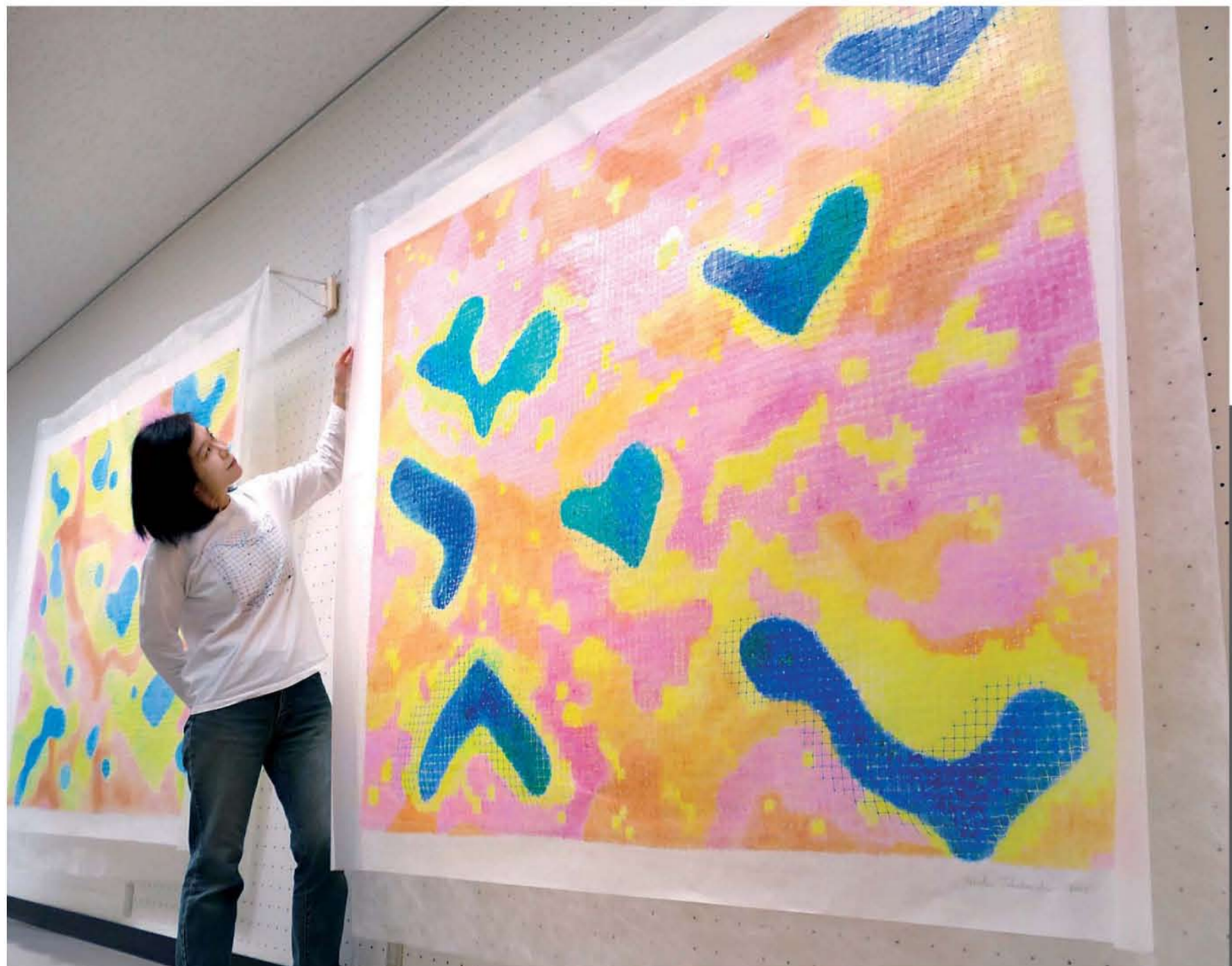
今秋開催されるさいたま国際芸術祭2023の応援プロジェクトで、先行して開催されている「美術と街巡り」。再開が進む浦和駅西口周辺を舞台に、地元ゆかりの美術家と市民が共同でつくり上げたアートプログラムの数々。パンデミックに戦争…、創作活動で乗り越えていく作家たちのエネルギーを感じるに違いない。さあ、生命ほとばしる春を探しに街に出よう。

応援プロジェクト 美術と街巡り・浦和

### さいたま国際芸術祭2023

テーマ「わたしたち」

#### 高草木裕子さん



# 春、温かさと冷たさ同居

### どこかでお会いしましたね2023 第10回記念展

19日まで(会期中無休)、観覧無料。17日13時~16時、初心者向けペンタプレット体験会。18日14時~15時、アーティストトーク。埼玉ゆかりの25人の作家が世代や流派を超え、作品を展示する。問い合わせは、高草木裕子さん(☎080・3084・9530)。



1963年千葉生まれ。上尾市在住。85年共立女子大学現代造形コース卒業。88年より、「いのち・成長・連鎖」をテーマにした平面作品、インスタレーションを制作・発表。個展、グループ展多数。2015、19年、「さいたまスーパリアリーナ夏休みスペシャルワークショップ」講師。17、18年、信濃毎日新聞「送る」の「挿し画」担当。18年放送大学大学院修士課程修了。

「たかくさき・ひろこ」  
963年千葉生まれ。上尾市在住。85年共立女子大学現代造形コース卒業。88年より、「いのち・成長・連鎖」をテーマにした平面作品、インスタレーションを制作・発表。個展、グループ展多数。2015、19年、「さいたまスーパリアリーナ夏休みスペシャルワークショップ」講師。17、18年、信濃毎日新聞「送る」の「挿し画」担当。18年放送大学大学院修士課程修了。

「影響しあう連鎖ゆらぎをどう表現するかが、創作の土台と語る、現代美術作家の高草木裕子さん。新作「おのずから発現するもの2023」(2点)は、生死を繰り返す自然の営みを、マスクに使われる巨大な不織布にのせたトレーシングペーパー(1800mm×2200mm)上で表現した。網の素材は、18mm角の透明ネット(ポリプロピレン製)を使用。「軽くて色を付けやすく、焼却時に有毒ガスが出ないのいい」と

### へおのずから発現するもの2023 埼玉会館 第1展示室

春を思わせるやさしい色合い。布と柔らかい紙、さらに網を重ねた作品は、わずかな息遣いでふわふわと揺れる。眺めていた若いカップルが「温かさの中に冷たさを感じる。プラスとマイナスが同居し、ゆかさや伝わってくる。」

「影響しあう連鎖ゆらぎをどう表現するかが、創作の土台と語る、現代美術作家の高草木裕子さん。新作「おのずから発現するもの2023」(2点)は、生死を繰り返す自然の営みを、マスクに使われる巨大な不織布にのせたトレーシングペーパー(1800mm×2200mm)上で表現した。網の素材は、18mm角の透明ネット(ポリプロピレン製)を使用。「軽くて色を付けやすく、焼却時に有毒ガスが出ないのいい」と

「おのずから発現するもの2023」(2点)は、生死を繰り返す自然の営みを、マスクに使われる巨大な不織布にのせたトレーシングペーパー(1800mm×2200mm)上で表現した。網の素材は、18mm角の透明ネット(ポリプロピレン製)を使用。「軽くて色を付けやすく、焼却時に有毒ガスが出ないのいい」と

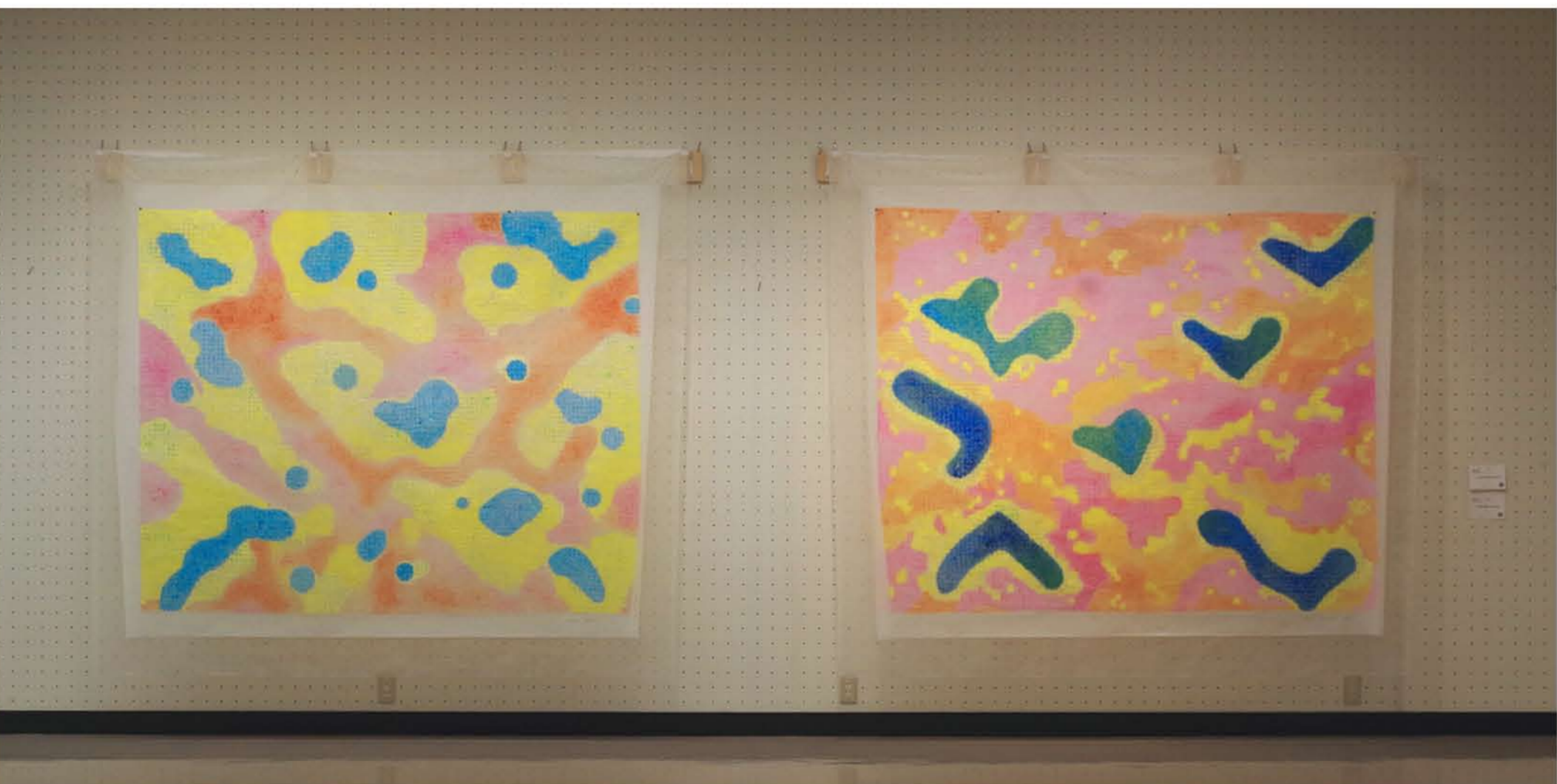
- 1 INDEX
- 2 見どころの作品と会場ガイド
- 3 国際芸術祭ディレクター「目(mé)」インタビュー
- 4

各展覧会や関連イベントの詳細は「美術と街巡り」で検索。またはQRコード

■ホームページとFacebook

美術と街巡り 検索

Art and Walk URAWA



高草木裕子 展示作品  
おのずから発現するもの2023-1、2